社会福祉施設連絡会通信(No.４４)

施設連絡会の皆さま方におかれましてはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

今回は、10 月 28 日に開催された「地域づくりフォーラムin八尾」の特集号です。

【地域づくりフォーラムin八尾】

１．開催日
令和８年１０月２８日（水）
午後１時～午後３時
２．場　所
八尾市文化会館　小ホール
３．プログラム
（１）開会挨拶
社会福祉施設連絡会　会長　荒井　恵一　氏
（２）来賓祝辞
八尾市長　大松　桂右　氏
【第１部】　基調講演
テーマ　「多機関協働による地域共生社会まちづくり」
講　師　社会福祉法人全国社会福祉協議会
会　長　村木　厚子　氏
【第２部　シンポジウム】
テーマ　「地域共生社会の実現に向けて～おせっかい日本一のまちづくり～」
コメンテーター
社会福祉法人全国社会福祉協議会
会　長　村木　厚子　氏
コーディネーター
摂南大学現代社会学部
講　師　上野山　裕士　氏
シンポジスト
社会福祉施設連絡会
会　長　荒井　恵一　氏
八尾市社会福祉協議会
次　長　石川　真規　氏
八尾市健康福祉部
次　長　岡本　由美子　氏
（３）閉会のあいさつ
社会福祉施設連絡会　副会長　辻　茂子　氏

荒井会長（社会福祉法人八尾隣保館）より「地域づくりフォーラムin八尾」の開催にあたり、「本日のフォーラムは、複合化する生活課題を抱える世帯やさまざまな地域課題が山積している中、『「地域共生社会」の実現に向けた多機関協働の必要性』をテーマに本日のフォーラムを企画いたしました。

私たち社会福祉法人の福祉施設は、福祉サービスの提供だけではなく、『社会福祉法人の使命』として地域の課題やニーズに向き合い、さまざまな地域貢献事業にこれまでも積極的に取り組んで参りました。

社会福祉法人の地域貢献事業を、地域福祉の推進のために、日々ご活躍されておられる会場の皆さまにご報告させて頂き、皆さまにとって、明日からの地域福祉活動に活かすことが出来る有意義な学びと気づきの場となれば幸いであります。」と挨拶がありました。



▲荒井会長の開会の挨拶

その後、八尾市長　大松　桂右　氏より「八尾市においても重層的支援体制整備事業に取り組み、地域共生社会の実現を目指しています。社会福祉法人施設と社会福祉協議会、地域で福祉活動を担っている地区福祉委員会や民生委員児童委員協議会などの協働により、さらなる福祉のまちづくりに期待しています。また、八尾市は児童虐待防止にも積極的に取り組んでいる。また、今日はピンクシャツデーです。ピンク色のものを身につけていじめ防止を PR してほしい。」と来賓の言葉がありました。



▲大松八尾市長からの来賓のお言葉

【第１部　基調講演】

基調講演では、社会福祉法人全国社会福祉協議会　会長　村木　厚子氏より、「多機関協働による地域共生社会のまちづくり」をテーマに基調講演が行われました。



▲村木会長の講演のようす

講演では、福祉を取り巻く環境として、主要先進国の高齢化率・平均寿命、合計特殊出生率の推移を背景に、我が国における財源状況・社会保障と税の一体改革の内容を分かりやすくご説明頂きました。

また、村木会長が公務員時代に課題として捉えていた「行政のタテ割り」を生活困窮者自立支援法制定時において制度があっても生活困窮者の共通点は、複数の困難が重なっていることや社会とのつながりが切れていることなどを学んだとご報告されました。その中で、「地域共生社会の実現」を掲げることになったが、その実現のためには「公民協働」や「多機関・他職種連携」の視点が大切とありました。

社会的孤立が課題とされる中、東京大学先端科学技術研究センター　教授　熊谷　晋一郎氏の「自立とは、依存しないことではない。自立とはたくさんのものに少しずつ依存できるようになるということである」という考え方を大切にしているとありました。また、支援する側もひとつの機関だけで頑張るのではなく、みんなで頑張るという考え方が必要であり、太い、長い綱をつくるだけでなく、「綱」を「網」にすることが真のセイフティーネットであり、それを横（多機関・地域）につなげることが大切とありました。

最後に、裁判を控えて大阪に来ていた時に、大阪人の温かい人情に触れたエピソードなどもご講演頂きました。

【第２部　シンポジウム】

摂南大学現代社会学部　講師　上野山　裕士氏のコーディネートでシンポジウムが行われました。



▲コーディネーターの上野山先生（右）

まずは、社会福祉施設連絡会　会長　荒井　恵一　氏より八尾市におけるネットワークの仕組み「八尾モデル」についての説明がありました。

その後、「なぜ社会福祉法人に地域貢献が求められているのか」を社会福祉法人に与えられている優遇措置を背景に見合った取り組みを「社会福祉法人の使命」として求められており、「公益性のある事業を自ら開拓して展開させること」が大切とありました。また、今後の施設連絡会の展望として、一つの機関・団体だけで地域課題に取り組むのではなく、地区福祉委員会や民生委員児童委員協議会と連携することが大切とありました。



▲荒井会長の発表

次に、八尾市社会福祉協議会次長　石川　真規氏より社会福祉協議会が事務局を担っている団体の地域活動の実践報告、今後の地域福祉の方向性の報告がありました。



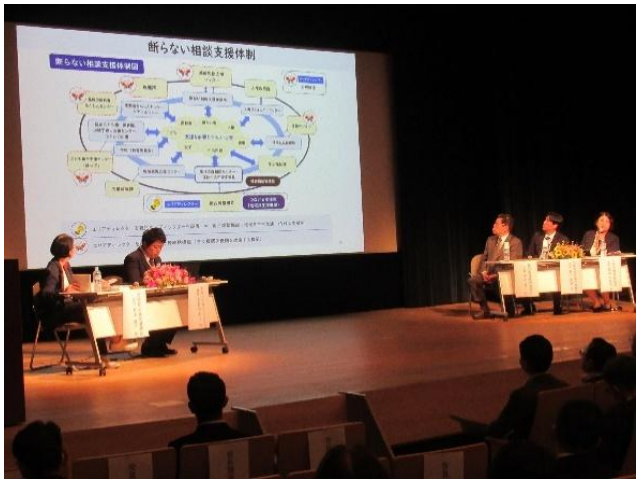
▲八尾市社協　石川次長

社会福祉施設連絡会が取り組んでいる「緊急レスキュー事業」「中間的就労事業」などをスライドで報告し、八尾市における社会福祉法人の取り組みは全国でもトップランナー的な存在であるとありました。また、地域では、地区福祉委員会の存在価値や民生委員児童委員協議会などによる地域活動を紹介し、社会福祉法人の専門性と地域団体の知恵や力を合わせると多くの地域課題は解決することが出来るとありました。

最後に八尾市健康福祉部　次長　岡本　由美子氏より八尾市における重層的支援体制整備事業の取り組みや持続化給付の経験などの報告がありました。「さまざまな機関や団体、個人が支援を重なりあうこと」「それぞれが一歩前へつながりなくなり誰ひとり取り残さない地域になっていく」とありました。



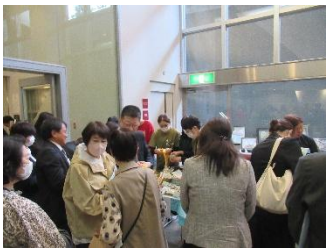
コメンテーターの村木会長からは、「八尾市の市・社協・社会福祉法人・地域の連携の取り組みは今後の地域福祉の推進にとても大切であると考えています。社会福祉法人の地域貢献事業が地域とこれだけ連携していることは本当に全国トップと思います。これから私も全国に発信していきたい。」とシンポジウムは幕を閉じました。



▲シンポジウムの様子

【障がい者施設　ブース販売】

会場のフロアーでは、多くの障がい者施設が販売ブースの出店にご協力頂きました。





社会福祉法人風の会「共働作業所　風」
社会福祉法人未来波障がい福祉サービス「きっと」
社会福祉法人未来派「きっと」わーくす
社会福祉法人信貴福祉会「りんごの木」
社会福祉法人恵生会「クリエイトしき」「しきファーム」
社会福祉法人「ゆうとおん」
社会福祉法人大阪肢体不自由児者父母の会連合会
「ベーカリーえいか」

【活動パネル展】

「大阪しあわせネットワーク」「八尾市の施設連絡会」の活動パネルを展示しました。





【災害被災地募金活動】

「熊本地震義援金」及び８月に発生した千葉豪雨についての災害義援金の募金を行いました。

これまでの施設連絡会の募金額 853,800 円となりました。



【閉会の挨拶】

最後に、施設連絡会辻副会長より「村木会長の講演から学んだことを八尾市の実践として取り組んでいきたい。」と閉会の挨拶がありました。



今回のフォーラムには、各施設から応援スタッフも大勢協力して頂きました。本当にありがとうございました。（事務局）